

**第506回 3月28日開催
出席委員（50音順・敬称略）**

荒巻 裕	伊藤 芳明
大村 英昭	木下 明美
櫻井 美幸	森 輝彦

◆ 審議事項

「MBSの放送全般について。今後のMBSに望むこと」

毎日放送の第506回番組審議会は3月28日大阪市北区の本社で開かれました。今回は個別の番組審議ではなく、「MBSの放送全般について。今後のMBSに望むこと」というテーマで、意見を交換しました。

委員の主な意見

- * 昨年、大阪市のカラ残業問題でMBSの報道が評価されたように、映像メディアとして是非ともきちんとしたジャーナリズムを体現し続けて欲しい。遠回りかもしれないが、それがMBSの生きる道だと信じている。
- * ワンセグが登場すると、視聴形態も変わってさまざまな影響が出てくるだろう。やがてレーティングにも。ゴールデンアワーも変わってしまう可能性がある。今のレーティングシステムの根本が問われることになるのでは。
- * ワンセグやパソコンで見る人が多くなれば、テレビとの付き合い方も変わり、番組内容もそれにあわせて変わるだろうが、やっぱり、関西は関西独自の番組があって良かったと思われる番組の強化を。「ちんぷいぷい」の成功、「VOICE」の果たした役割が顕著、この2番組に今後も期待している。

- * 知人の弁護士から、「関西の放送局は二番煎じばかりだ」サラリーマン的な記者たちが増えている。冒険をしない、ある程度視聴率を取れる安全な番組を作ることは出来るが・・・」との発言をよく聞く。MBSについては全く当たっていないと反論したが、もしかしたら一面の真実なのかも知れない。

- * 毎日放送に望むことは、究極的にはいつも唯一つ、「画面の中に人間が生きているテレビ番組」、「語りかけてくる声の中に人間が生きているラジオ番組」づくりを。「視聴者は今どんな番組を見たい、聞きたいと願っているか」を謙虚に考える問題意識を持ち、着想の豊かさを磨いてほしい。

- * 民放は放送の質とレーティングという相矛盾する要素を常に抱えながら工夫をしていると思うが、放送活動の価値判断の基準となる座標軸のようなものが、今後より必要な時代になってきている。それは法律でもなく、あるいは社内マニュアルでもなく、やはり倫理という座標軸だと思う。MBSは、そこら辺りに今後どう取り組むのだろう。

◆ 報告事項

「ワンセグ」について

地上デジタル放送を携帯電話などで見ることのできる「ワンセグ」についての報告がありました。

テレビ・ラジオの4月編成について

テレビ、ラジオの4月編成の概要・特徴について、編成局長とラジオ局長がそれぞれ報告しました。

委員の交代について

森委員が3月例会を最後に退任されました。